

子どもと関わる大人の現場で すぐに役立つ研修会

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘
〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山1-5-22

助成事業の概要

<実施目的>

専門的な知識を学び理解を深めるだけでなく、もっと根本的な専門職としての理念や子ども観についてしっかり見つめ見識を高めることを目標とします。子どもの現場で働く職員が夢を持ち前向きになれるように全国的に注目されるような講師陣を招聘し、学ぶ楽しみ、子どもと関わることの面白さ、誇りを持って働くモチベーションを奮い立たせる研修会を開催します。

<対象>

保育所、児童館、放課後児童クラブ等 子どもと関わる施設・事業従事者全般

<日時・内容等>

①10月2日(土) 10:00～12:00

講師：汐見稔幸(東京大学名誉教授、前日本保育学会会長)

演題：『教育・保育 最前線でいま 子どものかわる大人に伝えたいこと』

内容：教育・保育の方向性や、学術に基づいた未来に向けた提言、大切すべきまなざし、姿勢など

会場：仙台幼児保育専門学校 大ホール

②10月10日(日) 10:00～12:00

講師：新沢としひこ(シンガーソングライター)

演題：『子どもの歌がもっと楽しくなるために』

内容：保育士時代にりんごの木で学んだことや音楽と親しむコツ等、ミニコンサートも実施

会場：仙台幼児保育専門学校 大ホール

③11月21日(日) 13:00～15:00

講師：大竹英洋(写真家、土門拳賞受賞)、増田喜昭(子どもの本専門店メリーゴーランド店主)

演題：大人から子どもまで楽しめる「冒険」対談

内容：北米ノースウッズ冒険のエピソードと写真映写、本の世界に入り、物語をイメージする大切さ、コロナ禍のいま「冒険」すること、子どもと関わる大人が夢を抱く機会を作る重要性

会場：ベネシアンホテル 白石蔵王 ローブルーム

事業の成果

本年度の研修は、新型コロナウイルスの感染予防対策のため、会場もゆったりした定員数を設定し、開催しました。ソーシャルディスタンスを保ちながら、消毒、換気を万全の態勢で行ったため、大きな混乱や問題もなく終了することが出来ました。

①10月2日(土) 10:00～12:00

講師：汐見稔幸(東京大学名誉教授、前日本保育学会会長)

⇒参加者数：85名(保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ等の職員)

前日本保育学会会長で社会保障審議会児童部会保育専門委員会委員長、NHK「すくすく子育て」のパーソナリティーなど、日本の保育、教育を牽

引し、長年に渡り子どもと関わる現場を支え、知り尽くしている汐見氏にご講演頂きました。国内の子ども環境における現状の報告や、専門的見地での見解、様々な技術革新、地域文化の変化、コロナ禍への対応という新しい時代を迎えるいま、現場職員が大切にすべきことは何なのかについてお話頂きました。日本の0歳児保育は当たり前だが、欧米では行っていない国も多く、今日本の乳児の教育は非常に注目されていること、様々な研究から0・1歳児の教育の重要性が分かってきていること、これからの子ども環境を考えるキーワードは「懐かしい未来」であり、小さな地域コミュニティで子どもが健やかに育つ環境を考えていく必要があること、など様々なお話を頂きました。

②10月10日(日) 10:00～12:00

講師：新沢としひこ (シンガーソングライター)

⇒参加者数：80名 (保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ等の職員および学生)

保育、幼児教育の現場職員であれば誰でも知っている「にじ」「せかいじゅうのこどもたちが」「はらぺこあおむしのうた」などなど、多数の楽曲の作詞作曲を手掛ける新沢としひこ氏をお招きし、お話を頂きました。保育士時代、「りんごの木」園長で著名な保育者柴田愛子氏のもとで勤め、子ども観、声かけ、かかわり方、環境構成など日々の保育について常に話し合っていたことや、子どもの目線に立った遊んだことで気付いたエピソードなど、参加者が大きく頷くような貴重な話をたくさん聞くことができました。また、伝説のバンド「トラヤ帽子店」のメンバーやツアーでの出来事の話も出て、参加者からは驚きの声があがっていました。後半実施のミニコンサートでは、知っている曲ばかりで、一緒に口ずさんでいる参加者も多く、改めて新沢さんの凄さを感じた時間でした。最後に手話も交えた「にじ」が演奏

されると、多くの参加者が感動して涙し、日々の現場を思い描きながら明日への活力に繋げるような様子が見られ、大変貴重で有意義な研修となりました。

③11月21日(日) 13:00～15:00

講師：大竹英洋 (写真家、土門拳賞受賞)、増田喜昭 (子どもの本専門店メリーゴーランド店主)

⇒参加者数：45名 (児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)

講師スケジュールの関係もあり、白石蔵王駅すぐそばのホテルのホールを会場に開催しました。大竹氏は北米ノースウッズを冒険しながら雄大な自然や動物たちの営みを写真に収め、本年度国内有数の写真賞である土門拳賞を受賞した方です。世界的な写真家ジム・ブランデンバーグ氏を訪ね、自分の生きたい道を探り行動してきたエピソードを時系列でお話頂き、人と出会う大切さや、一歩踏み出す勇氣について御講話頂きました。また、三重県四日市で40年以上の歴史のある子どもの本専門店メリーゴーランド店主増田喜昭氏からは「本を読むことは冒険に出かけることと同じで、子ども時代にそういう出会いを」というお話を頂きました。コロナ禍で子どもたちは未来に夢を描くのが今だからこそ、日々の生活に『冒険』を意識することで「生きる力」が育まれるのでは、とお二人の意見が一致していました。

成果の広報・公表

<広報>

・チラシを①1,000枚、②1,000枚、③1,000枚の3,000枚を印刷し、特に仙台市を中心に宮城県内の児童館、保育園、幼稚園、放課後児童クラブなど子どもと関わる現場に配付しました。(当団体が運営する20カ所以上の施設、事業所含む)

<公表>

・研修内容についてホームページ等で公表し、各回の事業報告を団体Facebookに投稿し、開催内容について広く発信しました。

■ 今後の展開

未だコロナの影響が大きいですが、消毒、検温、換気を徹底して行い、無事に予定通り開催することができました。全国でも著名な講師陣の研修ということで、参加申込は早い段階で定員となったこともあり、今後は会場の広さも検討する必要があると感じました。ただ、大きな会場であれば、それだけ準備や消毒作業等の対応が必要になるので、バランスを見た研修運営をしていきたいと思えます。

今後の展開としては、これまで同様全国で活躍する著名な方をお招きし、学術的な学びに加え、職務にあたる上でモチベーションが向上するとともに、より多くの子ども現場職員に伝播していく工夫も考えていく必要があると思えます。オンラインでは伝わりにくい熱気のようなものを大切に、子どもと関わる大人として「人と人のコミュニケーション」を大事に、大きな目標を示せる研修会を企画したいと思えます。